

IMF、短期は底堅くも長期的課題を警戒

ポイント① 世界経済3.0%成長も低迷続く

7月25日（現地時間）、IMF（国際通貨基金）は世界経済見通しを改定しました。これによれば、2023年と2024年の世界の実質GDP（国内総生産）成長率は共に3.0%となる見込みで、2023年の予測値は今年4月時点の見通しから0.2ポイント上方修正されました。但し、IMFは「3.0%成長という水準は歴史的な水準に照らすと依然低迷が続いている」としています。一方、世界の総合インフレ率は、2022年の8.7%から2023年は6.8%、2024年は5.2%へ鈍化する見込みで、2024年の予測値は上方修正されました。

ポイント② 足元の経済は底堅い

今年4月の見通し発表以降、米国では連邦債務上限問題が解決されたほか、米欧では銀行部門の混乱を封じ込めるために当局が強力な対応を取りました。その結果、短期的には金融部門の混乱に起因する負のリスクが軽減され、経済の底堅さにつながったとIMFは見ているようです。

ポイント③ 中長期では課題山積

一方、2024年以降の中長期見通しにおいては、IMFは様々な課題を指摘しており、その一つとして「インフレ率の高止まり」を挙げています。ウクライナにおける紛争の激化や異常気象など、さらなるショックが発生して食料品価格などが急騰した場合、減速してきたインフレ率が再上昇するリスクがあるとしています。また、コアインフレ率は減速が穏やかであり、先進国では労働生産性の伸びが弱く労働コストが上昇する中、賃金高騰を伴って労働市場が逼迫しており、インフレ圧力となっていることもリスクとして挙げています。中長期ではまだまだ課題がありそうです。

国・地域別実質GDP成長率見通し

(前年比、%)

| | 2022 | 2023 | 2024 |
|----------|------|-----------|------------|
| 世界 | 3.5 | 3.0 (0.2) | 3.0 (0.0) |
| 先進国 | 2.7 | 1.5 (0.2) | 1.4 (0.0) |
| 米国 | 2.1 | 1.8 (0.2) | 1.0 (-0.1) |
| ユーロ圏 | 3.5 | 0.9 (0.1) | 1.5 (0.1) |
| 日本 | 1.0 | 1.4 (0.1) | 1.0 (0.0) |
| 新興・発展途上国 | 4.0 | 4.0 (0.1) | 4.1 (-0.1) |
| 中国 | 3.0 | 5.2 (0.0) | 4.5 (0.0) |
| インド | 7.2 | 6.1 (0.2) | 6.3 (0.0) |

(注) IMFによる予測
(注) ()内は2023年4月時点見通しからの修正幅、ポイント。
(出所) IMF「World Economic Outlook Update, July 2023
(<https://www.imf.org/>)」より野村アセットマネジメント作成

消費者物価インフレ率の見通し

(前年比、%)

| | 2022 | 2023 | 2024 |
|----------|------|------------|-----------|
| 世界 | 8.7 | 6.8 (-0.2) | 5.2 (0.3) |
| 先進国 | 7.3 | 4.7 (0.0) | 2.8 (0.2) |
| 新興・発展途上国 | 9.8 | 8.3 (-0.3) | 6.8 (0.3) |

(注、出所) 上表と同じ

重要イベント

7月26日 米金融政策発表
7月27日 ユーロ圏金融政策発表
7月27日 米GDP (4-6月期)
7月31日 ユーロ圏GDP (4-6月期)